

5

g o b a n
t u b e
c a f e
2 0 0 8

NEXT goban tube cafe EVENT
20081109
おやじカフェ Vol.01

ホスト

マスター

ゲスト

せんだいメディアテーク
尾崎行彦（画家・版画家）
畠山敏（畠山敏デザイン事務所）
鎌田雅宏（鎌田建築設計事務所）

カフェの内容

キャフェ=カフェ
そこは、一杯のコーヒーでただ憩いを得る所ではなく。
テーブルを囲んだ人々が、「愛」を「人生」を「芸術」をそして「国家」を語り合った空間。今回のカフェは、仙台で芸術・文化・街作りでちょいと遊んでいる「ちょい悪親父（おやじ）」達とテーブルを囲んで、人生や愛や芸術を語り合ってみませんか。悩みごとを相談してみませんか。



デザインのお悩みは◎畠山敏（畠山敏デザイン事務所）
1987年事務所設立。（社）日本グラフィックデザイナー協会（JAGDA）財務委員長・東北地域担当運営委員・宮城コンテンツクリエイターズ協議会代表幹事（MCCA）他。

お茶を飲みにくるだけでもOK!

当日飛び入りも歓迎!

■参加申込方法
faxまたは電子メールに「催し名、氏名、電話番号、年齢、相談したいこと」を記入して
10月30日（必着）までに「おやじカフェ」係までお申し込みください。
＊申込宛先 せんだいメディアテーク
電話：022-713-4483 FAX：022-713-4482
e-mail :office@smt.city.sendai.jp

開催日時 2008年11月9日（日）17:00－19:00
参加料200円（ワンドリンクつき）

5

g o b a n
t u b e
c a f e

r e p o r t
マスターによるカフェレポート
20080824 スタジオ・レクチャー vol.02

新しいタイプの都市ガイドブックでもあり都市論でもある『北京論 10の都市文化案内』を上梓したばかりの松原氏は、このメディアテークの設計をした伊東豊雄建築設計事務所に在籍し仙台に住んでいたこともある。今回、自ら携わった現場で話をすることに感慨と若干の緊張を持って臨まれたとのことだったが、そこに住み、建築を生業としている人ならではの目で読み解く北京の姿とその視点の立て方は鋭く、また、時にユーモラスなものだった。

それぞれの話は松原氏とともに北京を歩き撮影した浅川敏氏による写真を交えつつ行われた。さらに、会場のスタジオaに隣接したラウンジでは、『北京的多元時間』と題された浅川氏の写真を使った映像作品が展示され、テレビなどで流れ続けた競技場だけの北京とは別のイメージへと想像をふくらませてくれた。

今回松原氏によって語られた北京が魅力的に感じられたのは、独創的で確かな視点によって描かれていたからであると同時に、ほころんだ口元からこぼれ落ちた北京への愛が、つい私たちにも伝わったからのように思われた。

ホスト せんだいメディアテーク 小川直人



カフェ研からのコメント

お茶以外でのカフェの楽しみと言えば、心地よい家具、おしゃれな本、壁に飾られている素敵な絵等々。今回のカフェでは、普段はトレイを置いてコーヒーを楽しむテーブルに設置されたモニターで映像展示が行われ、即興的に机の高低差を活かして配置されたモニターに浅川敏氏が北京で撮影した写真が画面上に表れては消えていきます。映像はレクチャー終了後1週間展示されました。ちょうどカフェをやっていない時のカフェの使われ方ってどんな感じだろうとカフェ研で話していた矢先、そのモデルの一つを示してくれた展示になりました。

5

g o b a n
t u b e
c a f e

r e p o r t
ホストによるカフェレポート
20080920 FeslabCafe/SC³カフェ vol.02

クリエイティブ産業分野に関連する方をゲストに招き、リラックスした雰囲気の中、ゲストと参加者が交流を楽しむ場となることを目的とする「SC3Cafe」。

今回は、ゲストに横浜のNPO法人クリエイティブクラスター岡田智博氏をお招きし、文化活動を通じて新たな都市風土の転換に成功したオーストリア・ウィーン的事例や、リンツで開催されている「アルスエレクトロニカ」が地域文化や産業に与えた影響などについてお話をさせていただきました。その中で、創造的な風土づくりには、市民の文化多様性を認める風土づくり、多様な能力を持った個人が活躍できる環境づくりが重要であるなど、貴重なご提言もいただきました。

後半は、岡田さんと東北大学大滝教授によるトークセッションのほか、参加者からは仙台での取り組みに関連して幅広い質問がなされ、ゲストと参加者の距離が近い、まさにライブ感溢れるカフェになったと思います。なお、今回のトークセッションの内容は、後日、クリエイティブ関連都市型フェスティバル調査研究会（FesLab）webサイト（<http://feslab.net/>）にも掲載される予定です。ぜひそちらもご覧下さい。

ホスト 仙台クリエイティブクラスターコンソーシアム 熊谷和典



カフェ研からのコメント

2回目を迎えたSC3カフェ。岡田智博氏のお話は、メディア芸術が地域にもたらす効用を活動拠点である横浜や海外都市での事例を紹介して進められました。岡田氏独自の視点から率直な言葉で語られた内容から「現状を、目を見開いて、まざまざと見なくてはいけない」と強く問いかけられたかのようでした。質疑応答では講義に触発されたかの様に更なる盛り上がりを見せ、問いかけに答えるだけではなく、いつの間にか会場はディスカッションの場となりました。最後まで冷めぬ熱気を残して終了を迎えた今回のカフェ。その出会いから何かを生み出す事が出来る可能性を垣間見ることが出来ました。